

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

- 東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

目標値

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。なお、正答率を算出する上で、短答・記述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として計算している。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

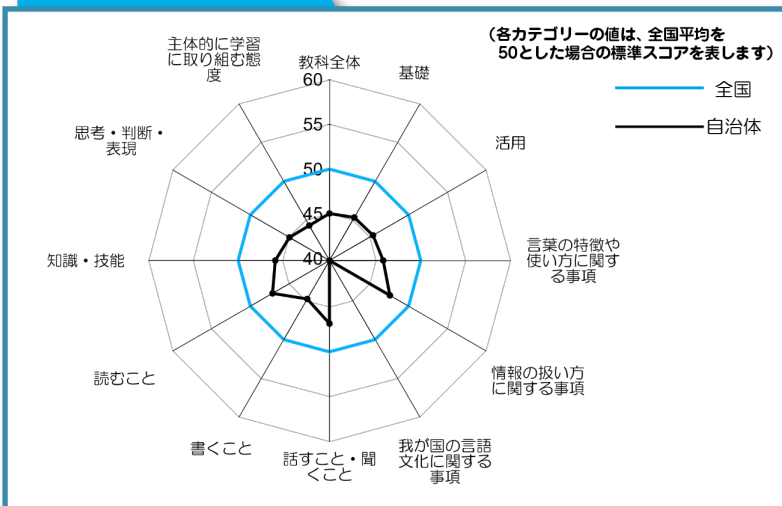
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		72.0	66.0	★										
基礎		76.5	70.7	★										
活用		62.5	55.9	★										
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.5	71.4	★										
	情報の扱い方に関する事項	62.5	55.6	★										
	我が国の言語文化に関する事項													
	話すこと・聞くこと	78.3	73.9	★										
	書くこと	56.7	44.3	★										
観点別	読むこと	76.7	70.3	★										
	知識・技能	73.3	68.7	★										
	思考・判断・表現	69.0	60.6	★										
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	51.6	★										

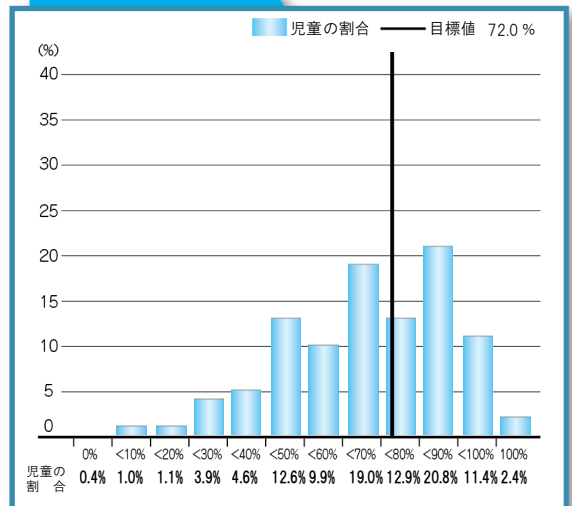
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が66.0%
- で、目標値を6.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が51.6%で、目標
- 値を11.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 60.0% 正答率 42.1% 差 ▲17.9 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ことの意味が十分に理解できていないと、文章を組み立てることは難しい。まずは、「段落」という定義を正しく捉えさせることが大切である。その上で、教科書の教材文を意味段落に分けさせたり、ひと続きの文章を、話題の切り替わりによっていくつかの段落に分けさせたりする練習を積みせるとよい。

せつ明文の内よを読み取る

大問5(1)

<ねらい> 叙述を基に文章の内容を捉えている。

目標値 75.0% 正答率 61.9% 差 ▲13.1 ポイント

指導のポイント 段落の内容に合う選択肢を選ぶ問題である。説明文を読む際には、それぞれの段落で何を述べているのか、中心は何か、といった段落ごとの要点を押さえる力が必要である。段落の中で中心になる文を見つけたり、それがいくつかの文にわたっているときは一文にまとめたりするなど、教科書の教材文を使って要点をまとめる活動を繰り返すことが大切である。

小3 算数

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

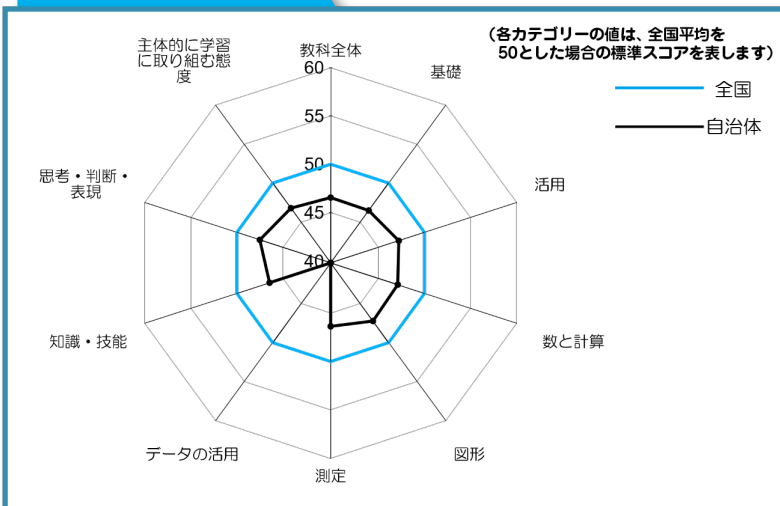
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		66.9	62.2											
基礎		74.5	69.5											
活用		54.6	50.3											
領域別	数と計算	66.2	61.1											
	図形	68.3	61.2											
	測定	68.0	64.8											
	データの活用													
観点別	知識・技能	73.5	69.6											
	思考・判断・表現	45.6	38.1											
	主体的に学習に取り組む態度	56.5	52.1											

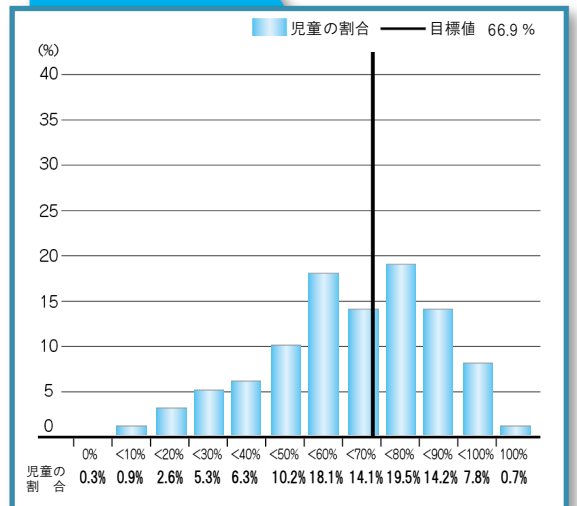
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が62.2%
- で、目標値を4.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「思考・
- 判断・表現」が38.1%で、目標値を7.5ポ
- イント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

わり算

大問6答え

<ねらい> 文章問題を解くために立式した除法の式から、あまりの処理をして、正しい答えを求めることができる。

目標値 45.0% 正答率 30.3% 差 ▲14.7 ポイント

指導のポイント 34dLのお茶を、1本に9dL入るポットに入れていくとき、全部のお茶を入れるのにポットが何本いるかを答える問題である。問題場面を図に表して考えられるかどうか、問題を解くときのポイントになる。本問では、余ったお茶の処理について考えさせることが大切であり、「余ったお茶を入れるポットも1本必要になる」という点に気付かせるよう、注意が必要である。

たし算・ひき算

大問3(6)

<ねらい> $4けた - 3けた = 3けた$ (波及的繰り下がりあり) の計算ができる。

目標値 75.0% 正答率 60.7% 差 ▲14.3 ポイント

指導のポイント 減法の計算問題では、計算するけたが増えると、位がずれる、繰り下がりがあったことを忘れて計算してしまうなどの間違いが起きやすい。方眼のあるノートを用いて、繰り下がったときには被減数を斜め線で消し、上に繰り下がった後の数を書くなどの工夫をさせることで、一の位から順番に計算していけば、必ず正しい答えを導き出せることを実感させたい。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

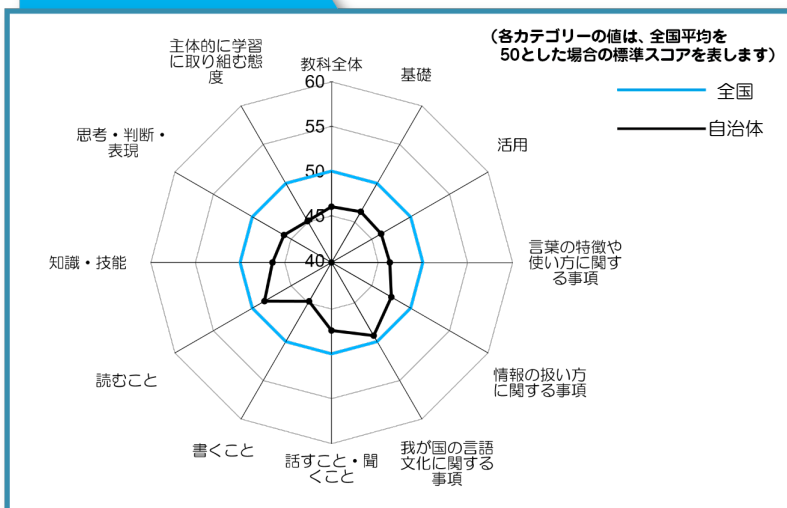
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		67.5	61.5											
基礎		70.9	64.9											
活用		61.1	55.2											
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.0	66.5											
	情報の扱い方に関する事項	63.3	56.3											
	我が国の言語文化に関する事項	85.0	83.6											
	話すこと・聞くこと	63.0	56.2											
	書くこと	56.3	38.6											
	読むこと	66.7	62.9											
観点別	知識・技能	70.4	65.5											
	思考・判断・表現	62.7	54.2											
	主体的に学習に取り組む態度	55.0	42.2											

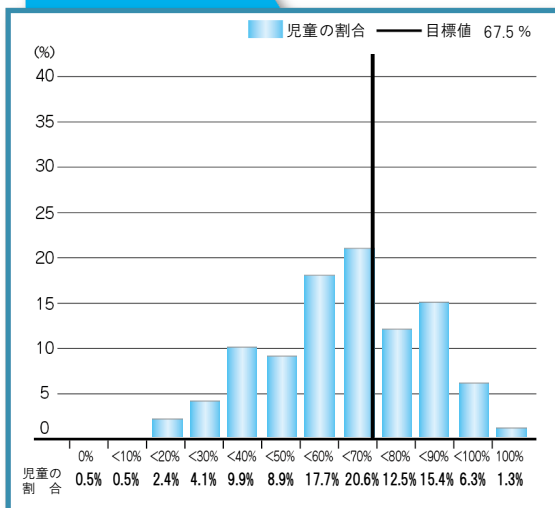
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が61.5%
- で、目標値を6.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が42.2%で、目標
- 値を12.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 指定された長さで文章を書いている。

目標値 70.0% 正答率 43.3% 差 ▲26.7 ポイント

指導のポイント ある程度の長さの文章を書くためには、何をどのように書くかという見通しをもつことが必要になる。本問では、そうしたヒントにも〈注意する点〉がなっている。これを参考にすることで、第一段落と第二段落に何を書かなくてはならないかが分かる。また、児童にとって、書くことの学習で難しいことの一つに、文章の書き出しが挙げられる。問題文にある文言を使えば、書き出しが簡単にできることを、繰り返し指導して習得させたい。

物語の内ようを読み取る

大問4(2)

<ねらい> 登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像している。

目標値 60.0% 正答率 44.9% 差 ▲15.1 ポイント

指導のポイント 文学的な文章において、文章の叙述を基に、登場人物の気持ちなどを捉えることは、基本となる読み方の一つである。本問では、文章の後半に設問部があるため、文章を前に戻って読み取り、それまでの物語の展開を理解しなくてはならず、戸惑う児童もいたと思われる。長い文章であっても、それぞれの場面で登場人物がどのような行動をとっているのか、また、それらの行動の背景にある気持ちはどのようなものであるのかを、きちんと読み取れるようにしておきたい。

小4算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

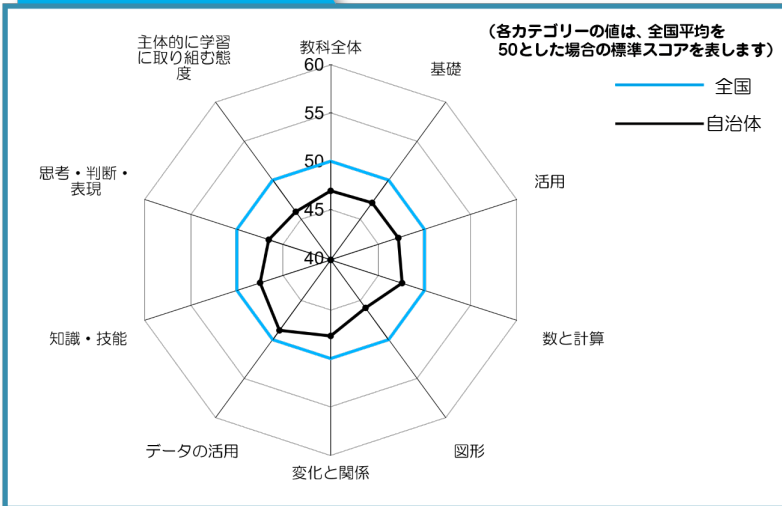
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		65.5	61.0											
基礎		70.0	65.2											
活用		55.5	51.5											
領域別	数と計算	66.4	63.5											
	図形	63.1	54.1											
	変化と関係	70.0	67.2											
	データの活用	65.0	60.2											
観点別	知識・技能	70.0	66.0											
	思考・判断・表現	55.5	49.8											
	主体的に学習に取り組む態度	52.0	42.7											

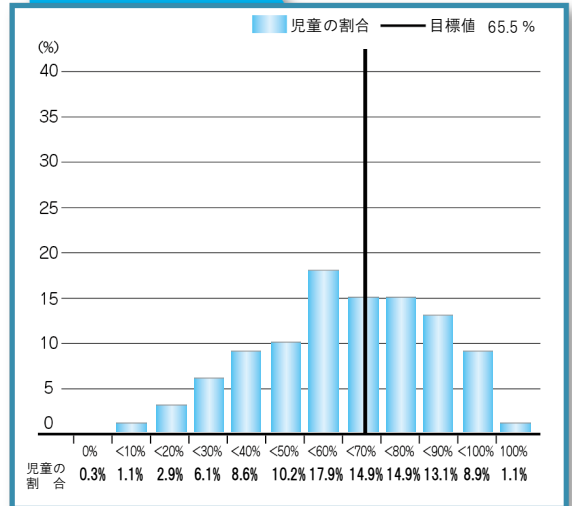
分析コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が61.0%
- で、目標値を4.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が42.7%で、目標
- 値を9.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

垂直・平行と四角形

大問15

<ねらい> ひし形の作図ができる。

目標値 80.0% 正答率 59.6% 差 ▲20.4 ポイント

指導のポイント ひし形は、4辺の長さが等しく、向かい合った2組の辺がそれぞれ平行であることを理解させたい。この性質が理解できていれば、既にかかっている2辺に続けて正しい辺をかくことができるだろう。図形の指導においては、定義や性質、作図の学習だけでなく、学習した図形を切り取らせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を取り入れることが大切である。そうした活動を通して、図形への理解を深めさせていく必要がある。

計算のきまり

大問11

<ねらい> 分配法則を用いて計算している。

目標値 55.0% 正答率 45.9% 差 ▲9.1 ポイント

指導のポイント 空欄に当てはまる式を選択させることにより、分配法則を用いた計算の仕方の理解を問う問題である。分配法則の意味については、長方形の面積を求めるなどの具体的な事象における考察を通して、しっかりと理解させたい。また、分配法則を使うことで、速く、簡単に、正確に計算できるよさを、具体的な計算を行う中で計算過程を比較させることにより、実感させることが大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

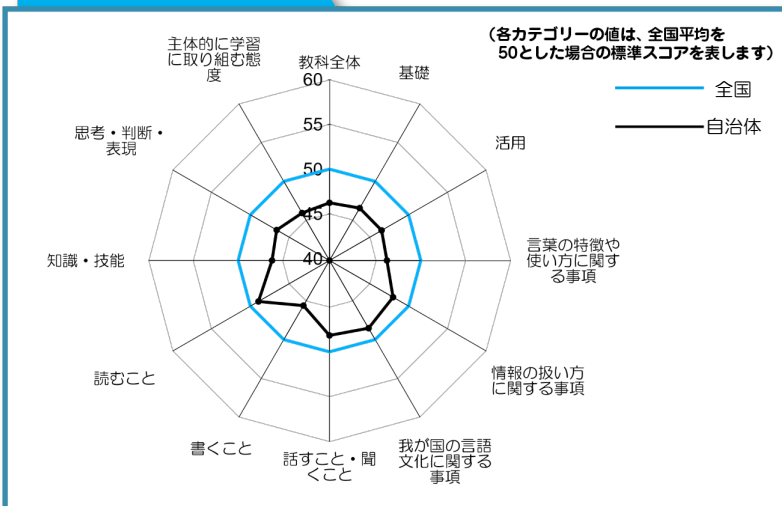
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		68.5	62.7	★										
基礎		71.9	66.4	★										
活用		60.6	54.2	★										
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.7	67.4	★										
	情報の扱い方に関する事項	55.0	57.5	★										
	我が国の言語文化に関する事項	40.0	17.1	★										
	話すこと・聞くこと	70.0	65.5	★										
	書くこと	64.2	50.4	★										
	読むこと	70.0	71.3	★										
観点別	知識・技能	67.9	62.4	★										
	思考・判断・表現	67.7	61.8	★										
	主体的に学習に取り組む態度	66.0	57.6	★										

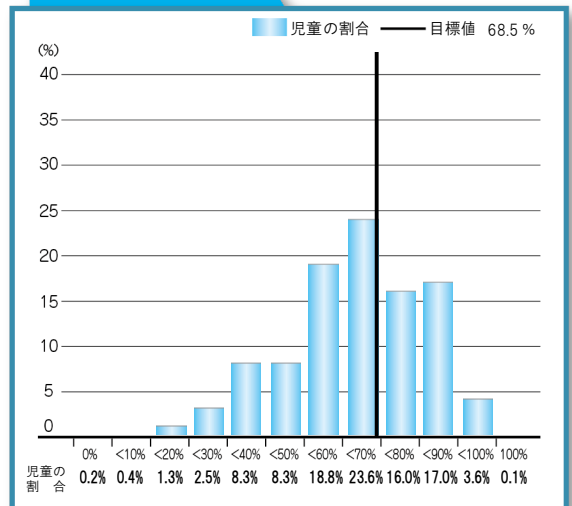
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が62.7%
- で、目標値を5.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が57.6%で、目標
- 値を8.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

言葉の学習

大問3(2)

<ねらい> 連用修飾語について理解している。

目標値 35.0% 正答率 9.2% 差 ▲25.8 ポイント

指導のポイント 修飾語と被修飾語の関係を理解しているかどうかを問う問題であり、「道路で」が修飾している言葉を見つける必要がある。「道路で」のような、連用修飾語になる副詞句は、被修飾語の直前に置くこともできるが、比較的自由的な位置に置くことができる。この文中での位置の自由さが原因で、意味が明確でない文になることもあるが、そうした日本語の特徴についても押さえるように指導していきたい。

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 75.0% 正答率 55.2% 差 ▲19.8 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題であり、第一段落に「自分の考えが、二つの意見のどちらに近いか」、第二段落に「なぜそのように考えるのか、自分の体験を交えて」書くことが求められている。作文にあたっては、記述に入る前に、まず文章の組み立てを考えさせたり、必要な材料を十分に集めさせたりすることが大切である。「段落」の定義を正しく理解させた上で、自分の考えを分かりやすく効果的に書いたり、意見と理由を区別して書いたりする力を養わせていきたい。

小5 算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

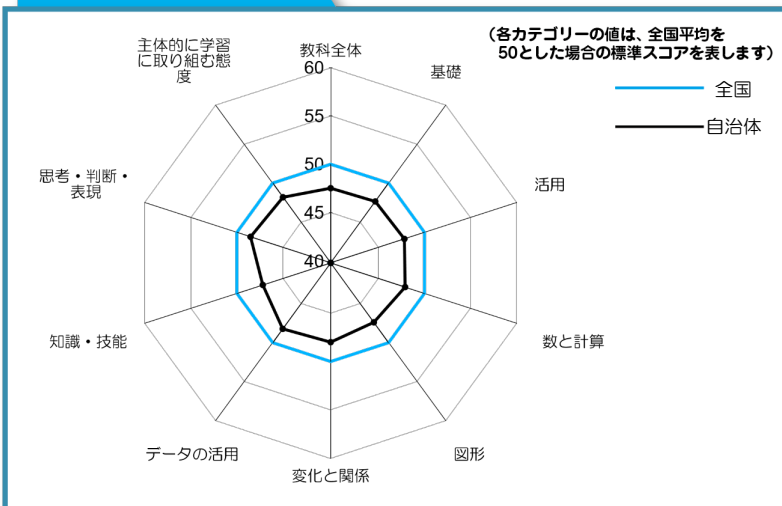
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		63.2	58.9											
基礎		70.4	67.1											
活用		43.3	36.1											
領域別	数と計算	61.6	57.5											
	図形	73.3	68.7											
	変化と関係	57.5	53.3											
	データの活用	62.5	56.3											
	知識・技能	70.2	66.3											
観点別	思考・判断・表現	50.4	45.3											
	主体的に学習に取り組む態度	47.9	42.8											

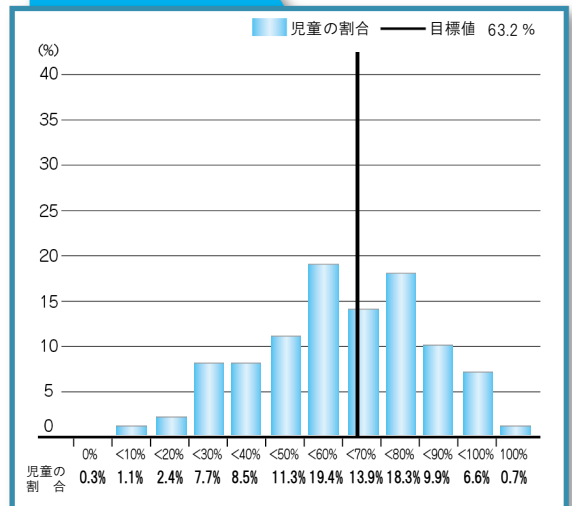
分析 コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が58.9%
- で、目標値を4.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が42.8%で、目標
- 値を5.1ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

小数のかけ算・わり算

大問20(3)

<ねらい> 小数の除法を用いて、どちらのふくろに入っている硬貨の金額が大きいのかを説明している。

目標値 30.0% 正答率 7.8% 差 ▲22.2 ポイント

指導のポイント 問題文には、「ひなこさんの求め方を参考にして」という文言がある。これは、ひなこさんの式を解釈して、問題場面に適用して解答するということである。自分の考えを式に表現することも大切であるが、友達が考えた式から考え方を解釈することも、大切な数学的活動である。日頃から、式だけを提示して、式に表された考え方を理論的に説明させるなどの活動を取り入れていく必要がある。

分数のたし算・ひき算

大問4(4)

<ねらい> 真分数+真分数=真分数で、分母どうしをかける通分をする計算ができる。

目標値 85.0% 正答率 74.4% 差 ▲10.6 ポイント

指導のポイント 分数の加法は、単位をそろえないと計算できないことを押さえさせる。本問では、 $\frac{1}{4}$ の単位が $\frac{1}{5}$ の単位にそろえられれば計算できるが、どちらもできない。そこで、分数の単位をそろえる通分により、分母をそろえること、通分のための最も簡単な方法は、両方の分母どうしをかけ合わせることであることを理解させたい。本問の場合、 $4 \times 5 = 20$ で、 $\frac{1}{20}$ を単位とした分数に変換する。そうすると、 $\frac{1}{4}$ は $\frac{5}{20}$ 、 $\frac{2}{5}$ は $\frac{8}{20}$ に変換できるから、 $\frac{5}{20} + \frac{8}{20}$ の式を計算させて、答えを求めさせればよい。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

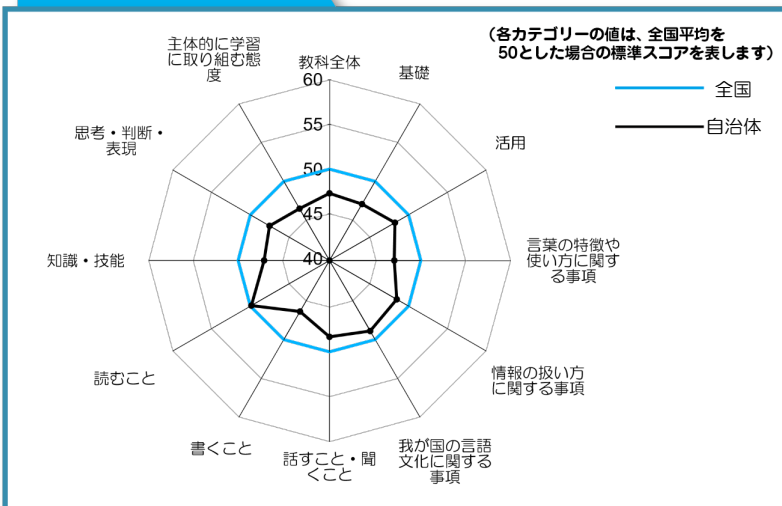
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		68.7	64.0	★										
基礎		70.0	63.5	★										
活用		66.1	64.7	★										
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	69.5	64.1	★										
	情報の扱い方に関する事項	60.0	64.8	★										
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	60.9	★										
	話すこと・聞くこと	71.7	64.8	★										
	書くこと	65.0	55.7	★										
観点別	読むこと	70.0	70.4	★										
	知識・技能	68.2	64.0	★										
	思考・判断・表現	68.3	63.4	★										
	主体的に学習に取り組む態度	64.0	55.5	★										

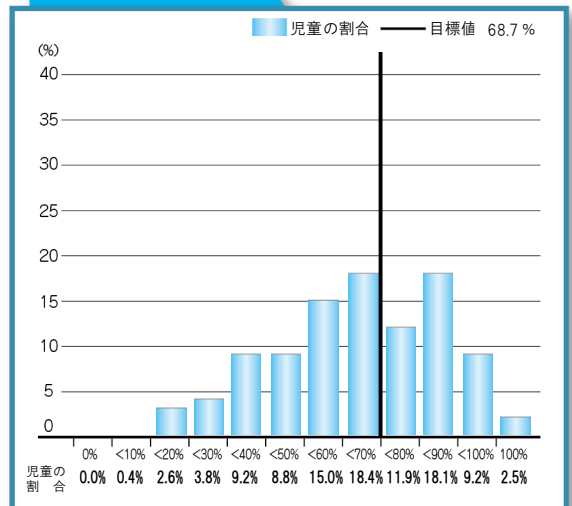
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が64.0%
- で、目標値を4.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が55.5%で、目標
- 値を8.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 75.0% 正答率 54.1% 差 ▲20.9 ポイント

指導のポイント 文章を書く問題では、「何を」「どのように」書くのかを理解した上で書くことが大切である。本問では、第一段落で、二つの意見のうち、どちらに賛成するか、及びその意見に賛成する理由を具体的に書き、第二段落で、予想される反論と、それに対する自分の考えを具体的に書く。重要なのは、意見及びその理由と、反論及びそれに対する考えを二つの段落に分けて書くことである。日頃から、自分の考えや感想をもつ訓練と、200字程度の短い文章を書きまとめるなどの伝え合う力を高める指導を行いたい。

漢字を書く

大問2(2)②

<ねらい> 第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 55.0% 正答率 42.2% 差 ▲12.8 ポイント

指導のポイント 学校では、漢字練習や小テストを繰り返しているが、定着するまでの学習時間には個人差がある。練習の方法としては、同じ漢字を1ページ書くよりも、書き順や送り仮名を覚えるために1行、熟語として2行、残りは文中で漢字を使うなどの練習をする方が望ましい。本問のように、短文を書く中で漢字を書けるようにする練習は、家庭学習として定着させたい。学校では、さまざまな教科の文章を書く活動で、分からない漢字はすぐに辞書で調べさせるなど、漢字を使って文章を書く習慣を身に付けさせることが大切である。

小6 算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

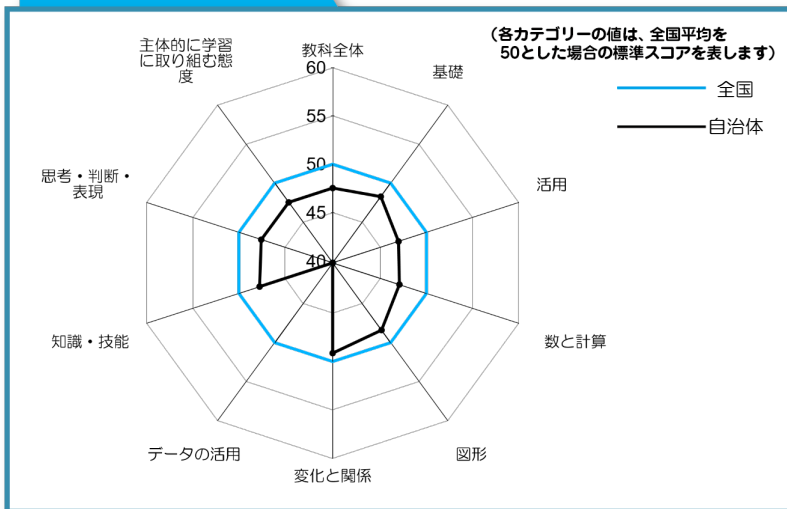
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		70.3	67.9	★
基礎		78.0	76.8	★
活用		53.5	48.3	★
領域別	数と計算	75.0	70.9	★
	図形	68.9	68.9	★
	変化と関係	51.3	51.6	★
	データの活用			
観点別	知識・技能	75.0	73.0	★
	思考・判断・表現	56.3	52.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	50.7	46.4	★

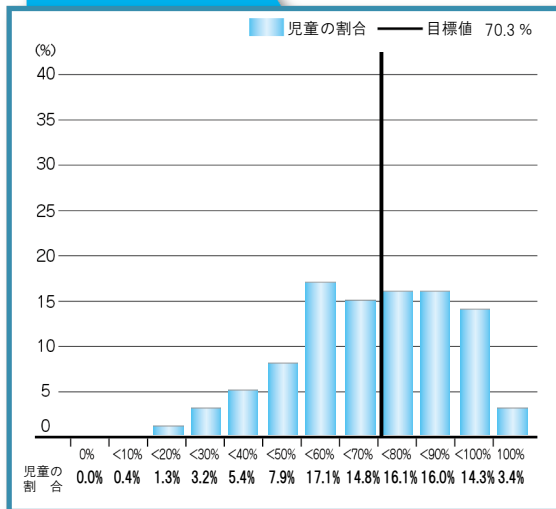
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が67.9%
- で、目標値を2.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が46.4%で、目標
- 値を4.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文字と式

大問9

<ねらい> 文字を使った式が表す場面を選んでいる。

目標値 60.0% 正答率 46.1% 差 ▲13.9 ポイント

指導のポイント 児童は、これまでに未知の数や変化する数を、□や○で表す学習をしてきているが、第6学年では、□や○の代わりにxやyなどの文字に表すことを学習する。文字の使用に次第に慣れさせていくことが大切である。さらに、文字に数を当てはめて調べる活動などを通して、文字には、整数と同じように小数や分数も当てはめることができることを理解させたい。

拡大図と縮図

大問13

<ねらい> 縮図を使って実際の長さを求めている。

目標値 80.0% 正答率 68.5% 差 ▲11.5 ポイント

指導のポイント 拡大図や縮図の問題では、対応する辺の長さの比がすべて等しいという性質を用いて答えを求める。実際の長さはmだが、縮図の長さはcmで表されるので、単位を間違えないように注意させたい。図2の辺DEの長さは4.3cm、同じく図2の辺EFの長さは2cmであり、辺DEの長さは辺EFの長さの2倍より少し長い。そして、辺EFに対応する図1のBCの距離が10mであり、本問は選択肢問題であることから、ABの長さについておよその見積もりが可能である。見直しをもって問題解決にあたる姿勢を大切にしていきたい。